

令和4年度（2022年度）

金沢大学法科大学院

入学試験問題

憲 法

D日程入試

（注意）

1. 問題冊子（表紙を含む）は3枚です。
2. 問題冊子は指示があるまで開かないで下さい。
3. 問題冊子と下書き用紙は持ち帰って下さい。
4. 解答は、鉛筆、シャープペンシル、ペン、ボールペンのいずれで記入しても構いません。
5. 解答にあたっては、どの問題から解答しても構いません。ただし、どの問題についての解答であるのかを答案中に明示してください。

令和4年度（2022年度）金沢大学法科大学院入学試験問題

試験科目	憲	法
------	---	---

以下の問題について解答しなさい。

問題1（20点）

次の事例を読み、[問い]に答えなさい。

Aは、B県立高等学校に勤務する教諭であり、教育熱心で生徒にも慕われている。Aは大学時代に、戦前日本の植民地政策や侵略戦争について学び、当時の日本の軍国主義に憤ると同時に、日の丸・君が代の下で日本が植民地において非道なことを行ったり若者たちを徴兵し死へ追いやってきたことに心を痛めた。現在の民主主義の日本は好きであるが、その国旗・国歌が、戦前の全体主義や軍国主義を象徴する日の丸・君が代であることは、戦前日本との決別を果たしたはずの今の日本にはふさわしくないと考えている。また、B高校には日の丸・君が代の下で苦しめられてきた当時の植民地にルーツをもつ生徒も在籍していることを考えると、高校の式典において日の丸を掲揚し君が代を斉唱し、それを学生にも求めることは、教師の良心から認められないし認めてはいけないと考えている。

201×年4月1日、B高校の校長は、式典において国旗掲揚と国歌斉唱を行うこととする教育委員会の通達に基づき、所属する教員に対し、入学式・卒業式における国歌斉唱の際に起立斉唱を命ずる職務命令を発した。Aは、教師としての信念から、この年の入学式において起立斉唱の職務命令に従わなかったところ、校長に呼び出されて嚴重注意を受けた。この年度の卒業式にも起立斉唱をしなかったところ、訓告を受けた。それでもAは、生徒のためにもこのような命令に従うわけにいかないという信念のもと、起立斉唱の拒否を続けたところ、次の年度の入学式での拒否に対して懲戒として戒告、卒業式での拒否に対して減給3か月の処分を受けた。その次の年度の入学式においてもなお起立斉唱を拒否したため、とうとう停職3か月の処分を受けることとなった。

Aは、教師としての信念に基づく行動によりこのような重い処分を受けることに納得がいかない。そもそも校長がこのような職務命令を出すことが憲法に違反するのではないかと考えている。

《参考法令》

地方公務員法

第29条① 職員が次の各号の一に該当する場合には、これに対し懲戒処分として戒告、減給、停職又は免職の処分をすることができる。

一 この法律若しくは第57条に規定する特例を定めた法律又はこれに基く条例、地方公共団体の規則若しくは地方公共団体の機関の定める規程に違反した場合

二 職務上の義務に違反し、又は職務を怠つた場合

三 全体の奉仕者たるにふさわしくない非行のあつた場合

第32条 職員は、その職務を遂行するに当つて、法令、条例、地方公共団体の規則及び地方公共団体の機関の定める規程に従い、且つ、上司の職務上の命令に忠実に従わなければならない。

[問い]

Aの起立斉唱拒否に対する懲戒処分は、憲法上どのように評価されるか。関連する判例を踏まえつつ論じなさい。

問題2（5点）

比例代表選出議員が政党を離れたときには議員資格を失うべきである、という考え方について、論評しなさい。